

# 地質標本館における博物館実習のあゆみ

兼子 尚知<sup>1)</sup>・利光 誠一<sup>2)</sup>・辻野 匠<sup>1)</sup>・中村 由美<sup>3)</sup>・森田 澄人<sup>3)</sup>

## 1. はじめに

博物館実習は、博物館法施行規則第一条第一項の規定に基づく、大学において修得すべき博物館に関する必修科目のひとつで、大学における学芸員養成教育の最終段階として、博物館などの活動現場において行われる実習である。他の科目は講義を通じて博物館学の専門知識を学ぶが、博物館実習は、実際の資試料の取り扱い方法や来館者への直接対応といった実践的な経験を積むことを目的とする。これらの科目の単位を修得することにより、博物館の専門的職員たる学芸員の資格(博物館法第五条第一項第一号)を有することができる。

## 2. これまでの実績と傾向

地質標本館では、学芸員の資格の取得を目指す希望者(主に大学4年生)に対し、1993(平成5)年度以降継続して博物館実習を実施してきた(第1表)。2020(令和2)年度までの28箇年度で、395名の実習生がこれを修了した。博物館法施行規則第二条第一項では、博物館実習は博物館法の定めによる登録博物館又は博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するもの、とされる。地質標本館は博物館法による博物館・相当する施設ではないが、各大学においては地質標本館を博物館に相当する施設に準ずると認めていることが理解できる。

年度別の大学数と人数を第2表に示す。初期の数年間においては、2～3の大学から計10名未満であることが多かった。1999(平成11)年度以降はコンスタントに10名を超え、20名以上の年度も散見されるようになる。大学数も5大学以上の年度が多くなり、初期の頃と比較すると、博物館実習を実施していることが、多少は知られるようになったのだろうと考えられる。加えて、実習を指導する側である地質標本館の体制整備やノウハウの蓄積もできてきて、多人数を受け入れ可能になったことも背景にある。

大学別に延べ人数を見ると、偏りのあることが読み取れる(第3表)。これまで、延べ36大学から実習生を受け入れているが、上位4大学で全体の8割を超える。これらの大学からは、毎年のように、まとまった人数の実習申し込みがあったためである。大学で開講される博物館学の講義に地質標本館や関連のスタッフが非常勤講師として招かれる場合、その受講生が実習先として地質標本館を第一選択肢とすることがあった。大学側の担当者が、地質標本館を毎年推薦していた例もある。さらに、当館で実習を行った先輩から情報を得て、その大学の後輩が次年度以降も継続して申し込んでくる事例もみられた。一方、実家が地質標本館の近隣に所在する学生は、当館へのアクセスが容易である。遠方の大学からの申し込みは、実家がつくば市近郊という事例が多い。この中には、親が産業技術総合研究所の職員である場合も含まれる。また、かつて地質標本館を訪れたことがあり、印象に残っているからという動機もみられる。実習館園の選択は、大学と博物館がパートナーシップを結んでいたり、大学側の担当者が実習先を紹介する場合を除き、学生が個人で実習先を探すことが基本である。過半数にあたる20大学が、1人のみ(17大学)か2人まで(3大学)なのは、このことの影響もあるだろう。実習生の志望動機、所属大学の偏りや変遷の原因は、上記のような事情によると思われる。その意味で、茨城県内もしくは近隣の大学が多いのは、自然なことであると考えられる。

実習日数にも、年度を重ねる中で変化が認められる。1990年代は、5日間から1週間程度が主であった。その後は徐々に実習日数が増える傾向が見られ、2001(平成13)年度以降は8日間以上の事例が多くなり、2007(平成19)年度からはほぼ10日間の日程が定着した。これは、前述したようにスタッフの実習経験が増えて内容が充実したことに加えて、大学側からも10日間程度とする要望が多くなったことによる。2020(令和2)年度までの実習生と実習日数の積の総和は、3400(人日)を超えている。なお、「博物館実習ガイドライン(文部科学省, 2009)」では、実習期間は5日間以上で延べ30時間から45時間程度

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門

2) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部

3) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター

キーワード：地質標本館、博物館法、学芸員、博物館実習、カリキュラム、技術研修

第1表 博物館実習の活動を紹介した文献のリスト（出版年順）。一部年度は博物館実習に関する報告がない。大学・個人毎に日程が異なることがあり、各文献中の実習生人数と年度別人数（第2表）とは必ずしも一致しない。次のシリーズは、それぞれのサイトからPDFファイルをダウンロードできる。

地質ニュース：<https://www.gsj.jp/publications/pub/chishitsunews/news-contents.html>

GSJ ニュースレター：<https://www.gsj.jp/publications/pub/newsletter/index.html>

GSJ 地質ニュース：<https://www.gsj.jp/publications/gcn/gcn.html>（閲覧日はいずれも2021年4月1日）

- |   |   |
|---|---|
| 1 奥山(楠瀬) 康子・小沢 泰子・遠藤 祐二(1995) 地質標本館だより No. 35 夏休みの行事より。地質ニュース, no. 486, p. 70-71.   | 14 中島 礼・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・中澤 努・兼子 尚知・谷田部 信郎・熊田 みさ子・新津 節子・春名 誠・豊 遥秋(2003)地質標本館だより No. 65 植物化石のクリーニング体験。地質ニュース, no. 582, p. 63-65.  |
| 2 豊 遥秋(1996)11. 地質標本館—研究現場と市民との接点—。地質ニュース, no. 500, p. 538-539.   | 15 中島 礼・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・中澤 努・兼子 尚知・熊田 みさ子・松江 千佐世・谷田部 信郎・新津 節子・福田 和幸・春名 誠・野田 篤(2003)地質標本館だより No. 66 第9回 自分で作ろう化石レプリカ—古生代「ウミユリ」—。地質ニュース, no. 586, p. 62-63.                   |
| 3 奥山(楠瀬) 康子・坂野 靖行・山本 良子・豊 遥秋(1996)地質標本館だより No. 41. 地質ニュース, no. 501, p. 66-67.   | 16 中島 礼・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・中澤 努・豊 遥秋・兼子 尚知・熊田 みさ子・谷田部 信郎・新津 節子・春名 誠・野田 篤(2003)地質標本館だより No. 67. 地質ニュース, no. 587, p. 64-65.  |
| 4 遠藤 祐二・奥山(楠瀬) 康子・牧本 博(1996)地質標本館だより No. 44. 地質ニュース, no. 507, p. 68-69.   | 17 中島 礼・中澤 努・兼子 尚知・徳橋 秀一・磯部 一洋・利光 誠一・谷田部 信郎・奥山 康子・井川 敏恵・青木 正博(2003)霞ヶ浦周辺の地層と化石—地質標本館 2003 年度野外観察会—。地質ニュース, no. 589, p. 23-30.   |
| 5 利光 誠一(1999)地質標本館だより No. 54 「第2回 自分で作ろう化石レプリカ」。地質ニュース, no. 539, p. 61-62.  | 18 酒井 彰・豊 遥秋・田代 寛・一瀬 めぐみ・兼子 尚知・辻野 匠・野田 篤・利光 誠一・奥山 康子・坂野 靖行・中島 礼・鶴飼 宏明・青木 正博・遠藤 祐二・滝口 信吾・春名 誠・西岡 芳晴・柳澤 教雄・谷田部 信郎(2004)地質標本館だより No. 68 2003 夏休みのイベント。地質ニュース, no. 595, p. 60-65. |
| 6 遠藤 祐二・熊田 みさ子・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行(2000)地質標本館だより No. 35 夏休みの行事'99。地質ニュース, no. 546, p. 67-70.  | 19 中島 礼・利光 誠一・奥山 康子・坂野 靖行・中澤 努・兼子 尚知・谷田部 信郎・田代 寛・新津 節子・春名 誠・野田 篤・磯部 一洋・和佐田 宣英(2004)地質標本館だより No. 69 2003 年度秋冬のイベント。地質ニュース, no. 597, p. 68-70.                                  |
| 7 奥山(楠瀬) 康子・遠藤 祐二・熊田 みさ子(2001)地質標本館 20 年のあゆみ。地質ニュース, no. 557, p. 54-58.   | 20 井川 敏恵・利光 誠一・奥山 康子・坂野 靖行・中澤 努・兼子 尚知・中島 礼・松江 千佐世・谷田部 信郎・新津 節子・春名 誠・青木 正博(2004)地質標本館だより No. 70 第12回 自分で作ろう!! 化石レプリカ—古生代「ウミサソリ」—。地質ニュース, no. 600, p. 66-67.                    |
| 8 坂野 靖行・豊 遥秋・春名 誠・奥山(楠瀬) 康子(2001)地質標本館だより No. 56 地質標本館体験型イベント「水晶拾い」。地質ニュース, no. 558, p. 63-67.  | 21 坂野 靖行・青木 正博・奥山 康子・柳澤 教雄・谷田部 信郎・大和田 朗・福田 和幸・利光 誠一・西岡 芳晴・中澤 務・中島 礼(2005)地質標本館だより No. 71 石を割ってみよう!。地質ニュース, no. 605, p. 65-67.   |
| 9 坂野 靖行・春名 誠・豊 遥秋・奥山(楠瀬) 康子・利光 誠一・柳沢 幸夫・遠藤 祐二・熊田 みさ子(2001)地質標本館だより No. 57. 地質ニュース, no. 559, p. 66-70.   |   |
| 10 利光 誠一(2001)つくば科学フェスティバル 2000 に参加して。地質ニュース, no. 562, p. 45-47.  |   |
| 11 谷田部 信郎・利光 誠一・坂野 靖行・熊田 みさ子・新津 節子・豊 遥秋・遠藤 祐二・須藤 定久・春名 誠・奥山 康子・兼子 尚知・中澤 努・中島 礼・酒井 彰・豊 遥秋・青木 正博・柳澤 教雄(2001)地質標本館だより No. 60. 地質ニュース, no. 566, p. 57-64. |   |
| 12 中島 礼(2002)地質標本館だより No. 61 第7回 自分で作ろう化石レプリカ。地質ニュース, no. 569, p. 66-67.  |   |
| 13 中島 礼・奥山 康子・坂野 靖行・利光 誠一・谷田部 信郎・熊田 みさ子・新津 節子・春名 誠・野田 篤(2002)地質標本館だより No. 62 第8回 自分で作ろう化石レプリカ。地質ニュース, no. 566, p. 69-70.                              |   |

第1表 続き.

<p>22 井川 敏恵・兼子 尚知・利光 誠一・荒木 飛鳥 (2005)化石のキャストを作ろうーつくば科学フェスティバル 2004 参加報告一. 地質ニュース, no. 607, p. 51-53.</p> <p>23 井川 敏恵・利光 誠一・奥山 康子・坂野 靖行・中澤 努・兼子 尚知・野田 篤・辻野 匠・中島 礼・谷田部 信郎・田代 寛・青木 正博(2005)地質標本館だより No. 74 第 13 回 自分で作ろう!! 化石レプリカー白亜紀の魚類一. 地質ニュース, no. 610, p. 61-62.</p> <p>24 井川 敏恵・利光 誠一・奥山 康子・兼子 尚知・中澤 努・坂野 靖行・野田 篤・中島 礼・谷田部 信郎・田代 寛・新津 節子・コール 一作・青木 正博(2005)地質標本館だより No. 75 第 14 回 自分で作ろう!! 化石レプリカ. 地質ニュース, no. 612, p. 68-69.</p> <p>25 井川 敏恵・利光 誠一・兼子 尚知・谷田部 信郎・荒木 飛鳥・田中 美穂(2005)つくば科学フェスティバル 2005 参加報告. 地質ニュース, no. 615, p. 39-42.</p> <p>26 井川 敏恵・利光 誠一(2006)化石レプリカ作り〜地質標本館 開館 25 周年記念イベントにて〜. 地質ニュース, no. 618, p. 14-15.</p> <p>27 井川 敏恵・利光 誠一・兼子 尚知・中澤 努・中島 礼・谷田部 信郎・目代 邦康・田中 美穂・青木 正博・田代 寛・新津 節子・吉田 朋弘(2006)地質標本館だより No. 76 第 15 回 自分で作ろう!! 化石レプリカー古生代の化石(三葉虫と植物化石)一. 地質ニュース, no. 619, p. 67-68.</p> <p>28 井川 敏恵・利光 誠一・中島 礼・兼子 尚知・坂野 靖行・角井 朝昭・辻野 匠・野田 篤・谷田部 信郎・目代 邦康・新津 節子・青木 正博(2006)地質標本館だより No. 77 第 16 回 自分で作ろう!! 化石レプリカー新生代の巻貝化石 ビカリアー. 地質ニュース, no. 620, p. 64-67.</p> <p>29 吉田 清香(2011)つくばフェスティバル 2011 ブース 出展. GSJ ニュースレター, no. 81, p. 1-2.</p>	<p>30 及川 輝樹・利光 誠一・今西 和俊・宮内 渉・酒井 彰・関口 晃・西沢 良教・朝川 暢子・吉田 清香・兼子 尚知・宮地 良典・Shuresuta Gaurabu・吉岡 真弓・宮崎 晋行・持丸 華子・藤井 孝志・野々垣 進・宮川 歩夢・北島 弘子(2012)地質の日関連イベント:地質標本館「作って学べる! 工作コーナー」(5月12日)およびつくばフェスティバル「移動地質標本館」(5月12~13日)開催報告. GSJ 地質ニュース, vol. 1, no. 10, p. 316-317.</p> <p>31 大和田 朗・佐藤 卓見・平林 恵理・青木 正博・関口 晃・吉田 清香・朝川 暢子・利光 誠一(2012)地質標本館夏休み体験学習「石をみがいてみよう!!」. GSJ 地質ニュース, vol. 1, no. 12, p. 382-383.</p> <p>32 利光 誠一・吉田 清香・兼子 尚知・小長谷 達郎(2013)うしくサイエンスフェスタ 2013 への参加報告. GSJ 地質ニュース, vol. 2, no. 5, p. 159-159.</p> <p>33 吉田 清香・芝原 暁彦・兼子 尚知・住田 達哉・澤井 祐紀・宮内 渉・酒井 彰・朝川 暢子・渡辺 真人・下川 浩一・利光 誠一・宮地 良典・宮川 歩夢・風早 竜之介・勝部 亜矢・上澤 真平・西田 梢・伊藤 一充・入谷 良平・浅沼 宏・藤井 孝志・内出 崇彦・松本 弾(2013)「地質の日」イベント開催報告. GSJ 地質ニュース, vol. 2, no. 8, p. 254-255.</p> <p>34 産業技術総合研究所(2017)産総研は人を育てる. 22p. &lt;<a href="https://www.aist.go.jp/digbook/sansoken_human/book.pdf">https://www.aist.go.jp/digbook/sansoken_human/book.pdf</a>&gt;(2021年4月1日閲覧)</p> <p>35 兼子 尚知・利光 誠一・酒井 彰・常木 俊宏・畑 香緒里・谷島 清一・朝川 暢子・川鈴木 宏・奥山 康子・星野 美保子・辻野 匠・坂野 靖行・長森 英明・川邊 禎久・矢部 淳(2018)2018 年度 地質標本館夏のイベント. GSJ 地質ニュース, vol. 7, no. 12, p. 313-314.</p> <p>36 中村 由美・森田 澄人・兼子 尚知・利光 誠一(2021)2020 年度地質標本館における博物館実習. GSJ 地質ニュース, vol. 10, p. 56-59.</p>
---	---

以上実施するとされている。各大学で準備する実習日誌は、いずれも10日間もしくはそれ以上の紙面が用意されており、実習の実効性を確保するには10日間程度を要すると期待されていることが伺える。

地質標本館では、地質学に限定せず全ての分野の学生を実習生として受け入れている。半数程度の実習生は異なる分野が専門(地質学以外の理系及び文系学部)のため、最初は不安を感じることもあるようだが、個人的な都合でリタイアしたごく少数名を除いて、全員が無事に修了している。

### 3. 博物館実習開始の経緯と波及効果

地質標本館で博物館実習を実施することになったきっかけは、1988(昭和63)年度に遡る。この年、青年海外協力隊に参画し、外国の国立自然史博物館に赴任することになった高校地学教諭から、博物館実務に関する研修の依頼があった。地質標本館としては、このような依頼は初めてのことであったが受諾し、標本管理や展示理論、見学者対応を実践する研修を実施した。その後1993(平成5)年度、博物館学を担当していた大学教官から、地質標本館に博物

第2表 年度別の大学数と博物館実習生人数, 指導者・協力者一覧.

年度	大学数	人数	指導者・主な協力者
1993(H05)年度	2	8	神谷 雅晴・豊 遥秋・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・松江 千佐世・小沢 泰子・尾上 亨・兼子 尚知
1994(H06)年度	3	14	豊 遥秋・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・松江 千佐世・小沢 泰子・尾上 亨・兼子 尚知
1995(H07)年度	2	9	豊 遥秋・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・松江 千佐世・小沢 泰子・尾上 亨・兼子 尚知
1996(H08)年度	3	6	豊 遥秋・牧本 博・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・松江 千佐世・小沢 泰子・尾上 亨
1997(H09)年度	2	6	豊 遥秋・柳沢幸夫・遠藤 祐二・山本 良子・奥山 康子・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・松江 千佐世・春名 誠・兼子 尚知
1998(H10)年度	3	8	豊 遥秋・柳沢幸夫・遠藤 祐二・山本 良子・奥山 康子・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・松江 千佐世・春名 誠
1999(H11)年度	5	11	豊 遥秋・柳沢 幸夫・奥山 康子・佐藤 喜男・利光 誠一・坂野 靖行・春名 誠
2000(H12)年度	5	10	豊 遥秋・柳沢 幸夫・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・春名 誠
2001(H13)年度	4	10	豊 遥秋・遠藤 祐二・利光 誠一・春名 誠・奥山 康子・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・中島 礼
2002(H14)年度	5	13	豊 遥秋・兼子 尚知・遠藤 祐二・春名 誠・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・中澤 努・中島 礼・尾上 亨
2003(H15)年度	7	13	青木 正博・酒井 彰・兼子 尚知・春名 誠・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・中澤 努・中島 礼・尾上 亨
2004(H16)年度	6	18	青木 正博・酒井 彰・坂野 靖行・奥山 康子・利光 誠一・兼子 尚知・中澤 努・中島 礼・尾上 亨
2005(H17)年度	7	23	青木 正博・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・中島 礼・尾上 亨・大和田 朗・佐藤 卓見
2006(H18)年度	8	27	青木 正博・奥山 康子・利光 誠一・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・中島 礼・尾上 亨・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸
2007(H19)年度	6	15	青木 正博・宮地 良典・利光 誠一・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・辻野 匠・中島 礼・井川 敏恵・奥山 康子・尾上 亨・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸
2008(H20)年度	3	14	青木 正博・澤田 結基・利光 誠一・坂野 靖行・兼子 尚知・中島 礼・辻野 匠・奥山 康子・柳澤 教雄・井川 敏恵・尾上 亨・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸
2009(H21)年度	6	19	佃 栄吉・青木 正博・森尻 理恵・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・澤田 結基・中島 礼・利光 誠一・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・辻野 匠・奥山 康子・坂田 澄恵・尾上 亨
2010(H22)年度	3	21	佃 栄吉・青木 正博・澤田 結基・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・利光 誠一・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・辻野 匠・宮地 良典・中島 礼・柳澤 教雄・尾上 亨
2011(H23)年度	5	17	利光 誠一・下川 浩一・青木 正博・芝原 暁彦・酒井 彰・坂野 靖行・兼子 尚知・中澤 努・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・辻野 匠・中島 礼・尾上 亨
2012(H24)年度	6	19	利光 誠一・下川 浩一・青木 正博・住田 達哉・芝原 暁彦・及川 輝樹・坂野 靖行・兼子 尚知・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・辻野 匠・中島 礼・中澤 努・尾上 亨
2013(H25)年度	6	15	利光 誠一・下川 浩一・青木 正博・住田 達哉・芝原 暁彦・中島 礼・坂野 靖行・兼子 尚知・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・辻野 匠・高橋 雅紀・堀川晴央
2014(H26)年度	4	16	利光 誠一・下川 浩一・青木 正博・渡辺 真人・川辺 禎久・芝原 暁彦・坂野 靖行・兼子 尚知・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・辻野 匠・中島 礼・尾上 亨
2015(H27)年度	6	16	利光 誠一・下川 浩一・森尻 理恵・高橋 誠・奥山 康子・佐藤 隆司・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・兼子 尚知・辻野 匠
2016(H28)年度	6	11	利光 誠一・森尻 理恵・高橋 誠・奥山 康子・佐藤 隆司・下川 浩一・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・兼子 尚知・辻野 匠・尾上 亨
2017(H29)年度	5	14	藤原 治・辻野 匠・高橋 誠・佐藤 隆司・下川 浩一・林 和彦・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・福迫 大智・利光 誠一・兼子 尚知・尾上 亨
2018(H30)年度	11	14	藤原 治・兼子 尚知・高橋 誠・佐藤 隆司・下川 浩一・林 和彦・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・雨宮 涼華・利光 誠一・辻野 匠・尾上 亨
2019(R01)年度	8	16	森田 澄人・高橋 誠・佐藤 隆司・下川 浩一・林 和彦・酒井 彰・大和田 朗・佐藤 卓見・福田 和幸・平林 恵理・中村 由美・兼子 尚知・利光 誠一・辻野 匠・尾上 亨
2020(R02)年度	6	12	森田 澄人・中村 由美・兼子 尚知・利光 誠一・林 和彦・下川 浩一・高橋 誠・佐藤 隆司・佐藤 卓見・小倉 夏穂・福田 和幸・平林 恵理・柳澤 教雄
	総人数	395	

第3表 大学別の博物館実習生の延べ人数.

大学名(36大学)	人数
千葉大学	134
川村学園女子大学	95
筑波大学	64
茨城大学	27
日本大学	8
東京農業大学	6
立正大学	5
信州大学	5
帝京大学	5
東洋大学	4
大正大学	4
工学院大学	3
千葉科学大学	3
帝京科学大学	3
北里大学	3
東海大学	3
国土館大学	2
明治大学	2
東京大学	2
お茶の水女子大学	1
愛媛大学	1
横浜国立大学	1
駒澤大学	1
群馬県立女子大学	1
群馬大学	1
甲子園大学	1
高知大学	1
山口大学	1
昭和音楽大学	1
神奈川工科大学	1
神奈川大学	1
都留文科大学	1
東京工芸大学	1
東京都立大学	1
八洲学園大学	1
北海道東海大学	1
総人数	395

館実習の打診があり、上記の経験を土台にこれを受け入れることになった。

初期の数年間、地質標本館スタッフが試行錯誤しながらその年度のカリキュラムを考え、実習を行っていた。この期間は、地質標本館開催のイベント補助など、来館者対応を含む実践的なカリキュラムを取り入れつつあった時期でもある。実習生へ指導をすることが、地質標本館スタッフにとってもアウトリーチのスキルアップやノウハウ蓄積に繋がった。これは、地質標本館としても、その後のアウトリーチ活動(イベントや研修開催)の間口を広めることとなった。近年、地質標本館での一般来館者を対象とした体験型イベントは増加傾向だが、背景には博物館実習生の存在がある。館スタッフのみでは多数の来館者に対するきめ細かな対応が難しい場合、事前に来館者対応の注意点を

レクチャーした上で実習生にも参加してもらうことで、隅々まで目の行き届いたイベントの実施が可能となる。研修や学習協力の具体例を挙げると、移動地質標本館、地質情報展、中・高教員研修、小・中学生職場体験、学校団体への校外学習・実験演示などがある。このように、来館者との直接対応を経験できる実習生と、ノウハウ蓄積や人員面の貢献を受ける地質標本館の双方にとってメリットがある。

地質学が専門ではない実習生は先入観にとらわれることがないため、展示解説文・展示標本ラベルの表現のわかりにくさや不備に気づきやすい面があり、改善に繋がった例がある。また、展示解説実習においては、各自の専門知識を発揮した解説を展開することがあり、地質学を専門とする立場からは思いつかない内容が毎年のようにみられる。指導する側もその柔軟な発想の恩恵を享受し、一般来館者への館内案内などの機会にそのアイディアを活かすことができる。

#### 4. 実習内容

地質標本館では、現在は産業技術総合研究所における「技術研修」として博物館実習生を受け入れている。技術研修という枠の中で、博物館実習のカリキュラムは開始以来一貫して、工業技術院地質調査所あるいは産業技術総合研究所地質調査総合センター(GSJ)における地質の調査の研究成果に基づき、地質標本館の博物館としての活動を反映するよう構成されてきた。そして、常により良い内容となるよう見直しを行っている。

博物館実習を開始した当初は、基本となる地質標本の取り扱い実習のほか、地質標本館から4 kmほどの場所にある花室川ナウマンゾウ化石産地での探索会(第1表, 1)や栃木県那須塩原市産の木の葉化石原石を使った化石クリーニングイベントの補助、一般公開などでの来館者対応(第1表, 4)を柱とする実務経験を主としていた。標本取り扱いと来館者対応は、現在もカリキュラムの中心的位置付けとなっている。

地質標本館で開催する化石レプリカ作り(写真1)などの各種イベントへの参画(第1表, 7, 21)や、展示解説の実地体験(第1表, 34)のような自ら考えて行動するような内容を取り入れつつ、年度を重ねる毎にカリキュラムの改善を図ってきた。

現在では以下のような内容を主とし、10日間の実習を基本としている。

##### ・オリエンテーション

産業技術総合研究所地質調査総合センターの歴史と研究



写真1 化石レプリカ作りの説明 (2014年度).



写真2 化石クリーニングの指導 (2019年度).

内容について、地質標本館の役割、標本の登録管理、岩石薄片製作室見学

- 普及活動実習

館内見学及び展示解説実習(一点展示解説、見学コース作りなど)、地質標本館イベントの運営と来館者への説明及び対応(一般公開、各種イベント来館者対応=化石クリーニング教室、化石レプリカ作り、化石折り紙、実験演示解説など)

- 標本取り扱い実習

標本収蔵庫見学、登録標本整理、展示標本清掃

- 展示実務

展示解説文・ラベルチェック、標本展示改善、新規展示の模擬提案

近年は、これらのカリキュラムをA・B二通りの日程で実施してきた。A日程は、8月中～下旬に集中して10日間実施するもので、メインの日程と位置づけており、多くの実習生がこの日程で実習を行う。この期間は、夏休み中の地質標本館の大きなイベント(化石クリーニング教室・地球なんでも相談)を含み、実習生はイベント実施において大きな役割(会場設営や来館者への直接対応)を担う。一方、7月から12月にかけて分散して実施するB日程も設けている。B日程は、産総研一般公開(通常、7月後半)を含む期間とし、来館者対応を行う。さらに、化石レプリカ作りの体験学習イベントや展示標本の清掃といった普及活動及び標本取り扱い実習を実施する。また、個々の実習生と調整の上、A・B両日程にかかる混合日程を適宜導入している。このように、夏休み期間中に集中して実施する一方、スケジュールの合わない学生がいることを考慮し、複数日程で対応することで博物館実習希望者への受け皿と

なっている。以下、例として通常の実習を行った2019(令和元)年度と、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大という特殊事情の中で行った2020(令和2)年度について簡単に記述する。

#### 4.1 2019(令和元)年度の実習

2019年度の実習は、上記のカリキュラムに沿ってA日程(8月中～下旬の10日間)、B日程(7～12月にかけての10日間)を実施した。大学院入試との重複を避けるため、数名についてはA・B両日程にまたがる混合日程とした。全体では、延べ21日間にわたり計16名の実習生を受け入れ、全員が予定したカリキュラムを無事に修了した。

A日程では、一般参加者に対する化石クリーニングの指導者として、3日間にわたって化石クリーニング技術習得や解説のトレーニングと、見つけ出した木の葉化石に対する標本取り扱いの学習を行って臨んだ(写真2)。さらに、「地球なんでも相談」のサブイベントとして、化石クレイモデル作りや化石折り紙コーナー(写真3)を担当した。展示解説にかかる実習として、館内の任意の展示物を選択して解説を行う一点展示解説や、あるテーマで館内を1時間ほどで巡ることができる見学コース作りを織りこみ、最終日に一般の来館者がいる中で一点展示解説を実施した。

B日程では、産総研一般公開(写真4)や、夏休みに実施した砂イベントにおける来館者対応を行った。展示解説にかかる実習として、一点展示解説や見学コース作りを実施した。さらに、標本取り扱い業務にかかる実習として、第4展示室の鉱物・岩石展示の清掃作業を実施し、標本の展示技術を含む指導を行った。



写真3 化石折り紙の説明 (2019年度).



写真4 一般公開での来館者対応 (2019年度).

#### 4.2 2020 (令和2) 年度の実習

中村ほか(2021)による報告のとおり、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初は10日間を予定していた期間を5日間に急遽短縮して、感染防止対策を講じた上で博物館実習を実施した。このため、残念ながら、来館者に直接対応する内容は割愛せざるを得なかったが、短い日程の中で密度の高いカリキュラムを編成することとなった。

#### 5. おわりに

上記のようなカリキュラムで実施して、毎年の実習生から、充実した良い経験となったなどの感想が得られている。実際に博物館学芸員として職を得ることは難しいのだが、たとえ博物館学芸員にならずとも、この実習を通じて得た知識や経験をそれぞれの人生に活かしていただければと祈念する次第である。なお、地質標本館での博物館実習を修了した実習生全員の卒業後の進路追跡はできていないが、若干名が博物館学芸員もしくはサイエンスコミュニケーターなどとして活躍していることを確認している。

2021年4月現在では、新型コロナウイルス感染症流行の終息が予想できない状況にある。可能な限り感染防止の対策を講じた上で、学芸員の資格の取得を目指すみなさんの希望に沿えるよう、今後も博物館実習を継続していきたいと考えている。感染症の心配がなくなった際には、来館者との触れ合いを通じた実習を再開できればと願うばかりである。

これまで地質標本館において博物館実習を修了した多数

の実習生諸氏には、我々自身も教えられ互いに経験を高めあえたことを、深く感謝申し上げます。30年近くに及ぶ地質標本館での博物館実習の実施にあたり、著者ら以外にも実習指導に携わってこられた地質標本館室 運営グループ及び地質試料調製グループ、受付・メンテナンスなど多数の館スタッフ、そして地質調査所・地質調査総合センター所属の多くの方々から、さまざまな面でご協力を賜りました。ここに全てのお名前を記すことは叶いませんが、みなさまに篤く御礼申し上げます。

#### 文 献

- 文部科学省(2009) 博物館実習ガイドライン. 22p.  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/1270180.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/1270180.htm) (閲覧日: 2021年4月1日)  
 中村由美・森田澄人・兼子尚知・利光誠一(2021) 2020年度地質標本館における博物館実習. GSJ 地質ニュース, 10, 56-59.

---

KANEKO Naotomo, TOSHIMITSU Seiichi, TUZINO Taqumi, NAKAMURA Yumi and MORITA Sumito (2021) History of curatorial practice at the Geological Museum, GSJ, AIST.

---

(受付: 2021年3月2日)